

令和4年度
全国学力・学習状況調査
恵庭市の調査結果（報告）



令和5年3月
恵庭市教育委員会

目 次

1	調査の概要	1
2	「教科に関する調査」調査結果	
	（1）小・中学校各教科平均正答率の状況	4
	（2）教科別調査結果の詳細	
	① 小学校国語	5
	② 小学校算数	8
	③ 小学校理科	11
	④ 中学校国語	14
	⑤ 中学校数学	17
	⑥ 中学校理科	21
3	「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果	
	（1）小・中学校児童生徒質問紙調査結果の概要	25
	（2）学校質問紙調査の主な回答結果データ	34
4	総評	36

1 調査の概要

(1) 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下①・②の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象

- ・ 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
 - ・ 中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、中等教育学校3年生、特別支援学校中学部3年生
- ※ いずれの学年においても、全ての児童・生徒が対象です。

(3) 調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は「**悉皆（しっかい）調査**」です。

悉皆調査は「全数調査」などともいわれ、集まったデータ全てををれなく分析する調査のことです。（反対に、集まったデータの一部を抜き出して分析する調査は「標本調査」などといわれます。）

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査（テスト）

令和4年度は、国語と算数（小学校6年生）又は数学（中学校3年生）に加え、理科のテストが行われました。

平成31年度（令和元年度）から、国語と算数／数学の問題形式が変更【各教科ともA（主として「知識」に関する問題）・B（主として「活用」に関する問題）に分かれていたものが統合】となっています。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）

児童・生徒一人ひとりを対象とした調査と、各小・中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(5) 調査実施日

令和4年4月19日(火)

※新型コロナウイルス感染症の影響により当日参加できなかった学級は、4月20日以降5月20日までに実施。

(6) 調査を受けた児童・生徒数

単位(人)	小学校6年生			中学校3年生		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
恵庭市	569	569	569	244 (590)	246 (592)	246 (592)
全道(公立)	34,309	34,304	34,310	32,910	32,905	32,940
全国(公立)	965,308	965,431	965,761	891,820	891,913	892,585

※調査実施日の参加人数だが、恵庭市の中学校3年生については、当日参加できず4月20日以降5月20日までに実施した分を含めた人数を()内に記載。

(7) 調査の解釈にあたって留意いただきたいこと

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的に実施していますが、本年度に調査した教科は3教科のみであり、設問の内容も学習内容全てを網羅しているとは限りません。したがって、**調査の結果から分かるのは、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分や、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと**に十分ご留意ください。

(8) 調査結果の掲載方法

「教科に関する調査(テスト)」の結果については、次のような方法で表示しています。

①教科ごとの平均正答率(%)

恵庭市の平均正答率は、全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

全国・全道平均との比較(ポイント差)	記号	文言
+5.0以上	△	上回る
+2.0~+4.9	◇	やや上回る
-1.9~+1.9	≒	ほぼ同程度
-4.9~-2.0	◆	やや下回る
-5.0以下	▼	下回る

恵庭市における「教科に関する調査」の平均正答率の数値については、他市町村との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表していません。

同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表していません。

②教科の具体的な領域や設問ごとの（平均）正答率（％）

①のような全道・全国平均との比較形式のほか、市の（平均）正答率についても「記号」や「文言」で表します。

市の（平均）正答率	記号	文言
80%以上	◎	相当できている
60%～79%	○	
50%～59%	●	課題がある
49%以下	・	

「教科に関する調査（テスト）」の結果と異なり、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）」の結果については、恵庭市の回答率をそのまま表示しています。

※教科の領域ごとの結果では「平均正答率」、個々の設問の結果では「正答率」を表します。

（9）調査問題・質問内容および国・北海道の調査結果報告書について

調査問題とその正答例、解説資料及び質問紙調査の内容については、文部科学省の所管する国立教育政策研究所のウェブサイトの下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・令和4年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
⇒ <https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

また、国（文部科学省・国立教育政策研究所）としての調査結果報告書についても、同様にダウンロードすることができます。

- ・調査結果報告書（国） ⇒ <http://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/index.html>

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記アドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・調査結果報告書（北海道）
⇒ <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/gakuryoku04top.html>

※上記に記載したウェブサイトのアドレスは、いずれも令和5年1月現在のものです。



2 「教科に関する調査」調査結果

(1) 小・中学校各教科平均正答率の状況

令和4年度の恵庭市平均正答率について

- 全国平均については、小学校6年生の算数と中学校3年生の数学でやや下回ったが、中学校3年生の理科でやや上回った。そのほかのポイント差は、ほぼ同程度となった。
- 全道平均については、小学校6年生の算数でやや下回ったが、中学校3年生の理科でやや上回った。そのほかのポイント差は、ほぼ同程度となった。
- 平成26年度以降、全国平均との差が±5ポイント以内と、大きな差が見られない状況が続いている。

* 令和4年度 恵庭市小・中学校の各教科別平均正答率

		平均正答率						
		小学校6年生			中学校3年生			
R4 (今回)	教科	国語	算数	理科	国語	数学	理科	
		恵庭市 (国と比較)	≒	◆	≒	≒	◆	◇
		全国平均 (公立)	65.6%	63.2%	63.3%	69.0%	51.4%	49.3%
		恵庭市 (道と比較)	≒	◆	≒	≒	≒	◇
		全道平均 (公立)	64.4%	61.1%	62.9%	68.6%	48.9%	49.0%
R3 (前回) ※参考	教科	国語	算数	理科	国語	数学	理科	
		恵庭市 (国と比較)	≒	◆	(実施なし)	≒	≒	(実施なし)
		恵庭市 (道と比較)	≒	≒		≒	◇	

記号の意味 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



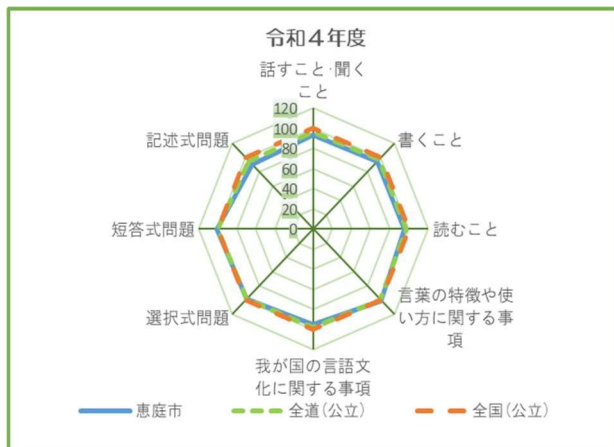
(2) 教科別調査結果の詳細

① 小学校 国語

解答時間45分・設問数14問

- 各領域等の平均正答率は、「言葉の特徴や使い
方に関する事項」は全国の平均正答率とほぼ同
程度で、その他の分野についてはやや下回っ
た。またすべての分野において、全道の平均正
答率とほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、
全国より2.9ポイント高かった。
- 「記述式問題」は3問中3問全国平均を3ポ
イント以上下回り、無回答率も高いことから、
文章を読み取り、自分の考えを記述すること
については課題がある。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市
平均正答率（分野別レーダーチャート）

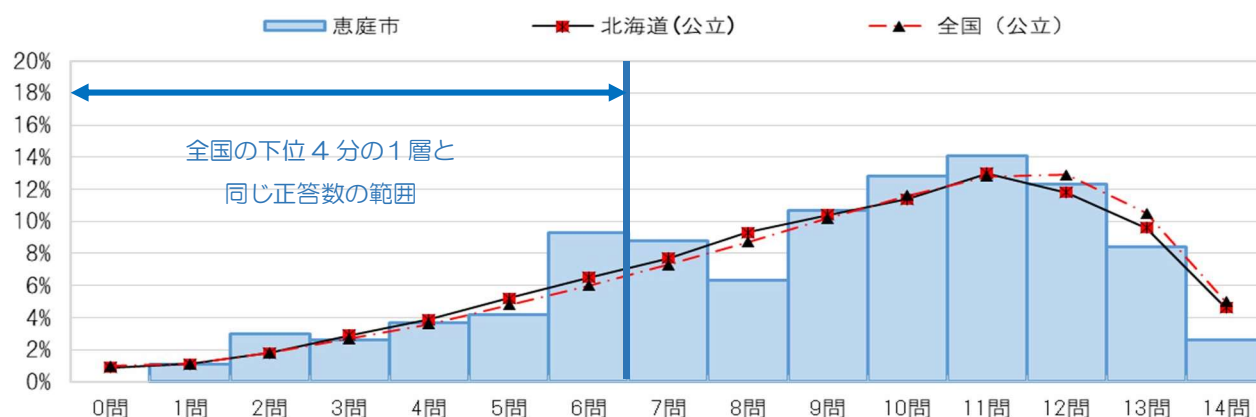


*小学校国語 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率					問題形式別正答率		
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や 使い方に関する 事項	我が国の言語文 化に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R4	恵庭市	○	▪	○	○	○	○	○	▪
	国と比較	◆	◆	◆	≒	◆	≒	≒	◆
	全国(公立)	66.2%	48.5%	66.6%	69.0%	77.9%	71.8%	63.6%	51.3%
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	◆
	全道(公立)	63.7%	47.4%	65.2%	68.7%	75.9%	70.6%	63.5%	48.8%
R3 (前回) ※参考	前回実施	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文 化と国語の特質 に関する事項		選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≒	≒	◆	≒		≒	≒	≒
	道と比較	◇	≒	≒	≒		≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R4	恵庭市	23.9%	2.9
	全国	21.0%	
	全道	22.3%	1.3

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	5問	話すこと・聞くこと	1 / 2問	選択式問題	2 / 8問
		書くこと	1 / 2問	短答式問題	0 / 3問
		読むこと	2 / 4問	記述式問題	3 / 3問
		言葉の特徴や使い方	0 / 5問		
		我が国の言語文化	1 / 1問		
無解答率が10%以上の設問	3問	話すこと・聞くこと	0 / 2問	選択式問題	0 / 8問
		書くこと	1 / 2問	短答式問題	1 / 3問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	2 / 3問
		言葉の特徴や使い方	1 / 5問		
		我が国の言語文化	0 / 1問		

【無解答率とは】

児童生徒が問題に取り組むのを断念し、何も解答しなかった割合です。その問題がねらいとしている内容を考えたり、書いたりすること自体を「難しい」「手に負えない」と感じていることが表れています。したがって、無解答率の高い問題では、解き方や考え方の習熟に課題があり、指導にいつもの丁寧さや工夫が求められるといえます。

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	話すこと・聞くこと	記述	■	47.7%	▼	44.2%	◆
					無解答率とその比較	4.6%	3.0%	1.6	3.5%
2一(2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	読むこと	選択	○	70.6%	▼	68.4%	◆
					無解答率とその比較	0.9%	1.6%	-0.7	1.4%
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> Aに入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	読むこと	記述	○	68.3%	◆	66.4%	≡
					無解答率とその比較	14.6%	12.2%	2.4	13.6%
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	書くこと	記述	■	37.7%	◆	35.8%	◆
					無解答率とその比較	16.7%	14.5%	2.2	16.4%
3四	(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	我が国の言語文化に関する事項	選択	○	77.9%	◆	75.9%	≡
					無解答率とその比較	2.6%	5.9%	-3.3	5.7%
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
3三ウ	【文章2】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(したしむ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	言葉の特徴や使い方に関する事項	短答	○	67.1%	≡	65.8%	◇
					無解答率とその比較	12.8%	14.7%	-1.9	15.4%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

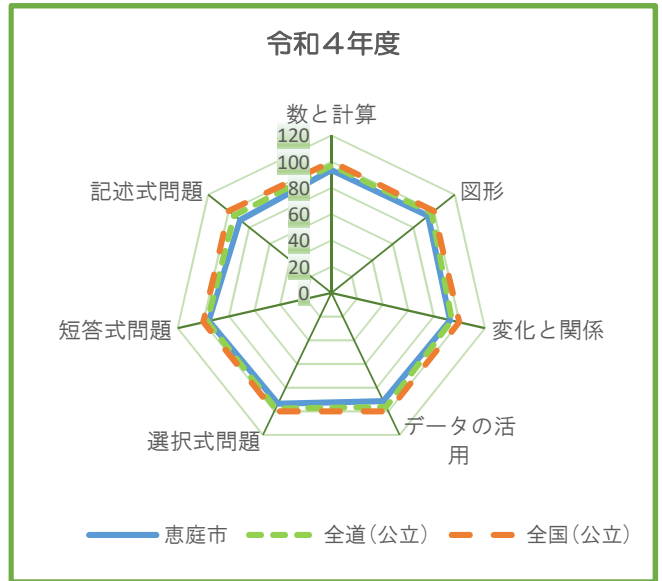


② 小学校 算数

解答時間45分・設問数16問

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域等の平均正答率は、「データの活用」は全国平均正答率を下回り、その他の分野についてはやや下回った。また「変化と関係」は全道の平均正答率とほぼ同程度であり、その他の分野についてはやや下回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、全国より5.8ポイント高かった。
- 正答率が全国より3ポイント以上下回った問題が10問あり、うち4問は「記述式問題」であった。また、無解答率が10パーセントを上回った設問も「記述式問題」であり、理由や方法等を説明することに課題があると考えられる。

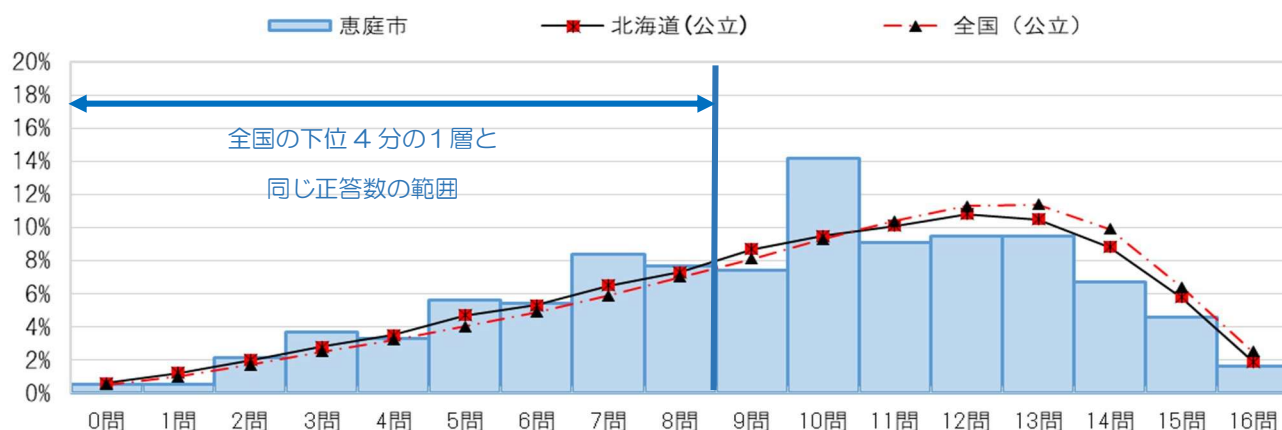


*小学校算数 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率			
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
R4	恵庭市	○	○	・	○	・	○	●	
	国と比較	◆	◆	◆	▼	◆	◆	▼	
	全国(公立)	69.8%	64.0%	51.3%	68.7%	51.8%	76.5%	60.2%	
	道と比較	◆	◆	≒	◆	◆	≒	◆	
	全道(公立)	67.7%	62.5%	48.3%	66.1%	50.6%	74.2%	57.0%	
R3 (前回) ※参考	前回実施	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	測定	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	◆	◆	≒	≒	◆	≒	◆	◆
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R4	恵庭市	29.5%	5.8
	全国	23.7%	
	全道	26.6%	2.9

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全16問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	10問	数と計算	4 / 6問	選択式問題	3 / 6問
		図形	3 / 4問	短答式問題	3 / 6問
		変化と関係	2 / 4問	記述式問題	4 / 4問
		データの活用	2 / 3問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	1問	数と計算	1 / 6問	選択式問題	0 / 6問
		図形	0 / 4問	短答式問題	0 / 6問
		変化と関係	0 / 4問	記述式問題	1 / 4問
		データの活用	0 / 3問	※領域の重複する設問がある。	

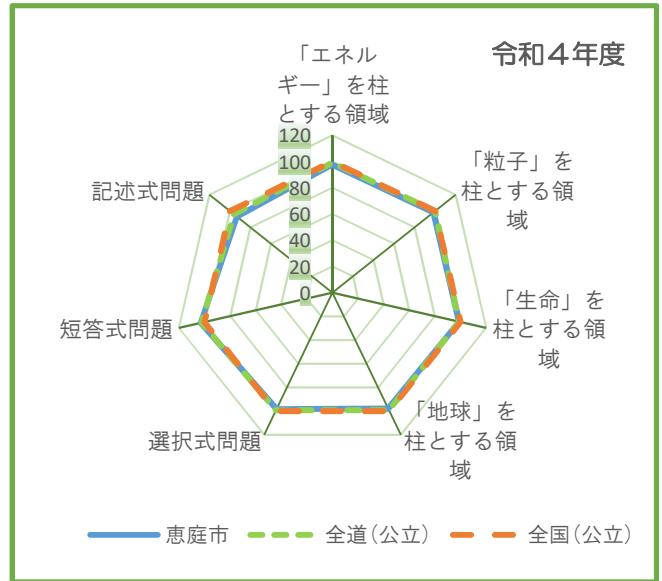
* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1 (2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	数と計算	短答	○	72.2%	◆	70.1%	◆
					無解答率とその比較	3.9%	3.0%	0.9	4.1%
1 (3)	カップケーキ7個分の値を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	数と計算	記述	○	76.0%	◆	73.5%	≡
					無解答率とその比較	8.1%	5.2%	2.9	6.4%
2 (2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	変化と関係	短答	●	64.6%	▼	61.4%	◆
					無解答率とその比較	4.4%	3.3%	1.1	4.0%
2 (4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	変化と関係	記述	▪	48.0%	▼	41.8%	◆
					無解答率とその比較	6.9%	5.5%	1.4	6.7%
3 (1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	数と計算、データの活用	短答	○	75.3%	▼	70.2%	◆
					無解答率とその比較	2.8%	2.1%	0.7	2.6%
3 (2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	データの活用	選択	●	63.9%	▼	61.3%	◆
					無解答率とその比較	1.4%	1.6%	-0.2	1.7%
3 (4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	数と計算	記述	●	67.7%	▼	63.8%	◆
					無解答率とその比較	12.0%	8.6%	3.4	10.4%
4 (1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	図形	記述	▪	48.8%	▼	49.0%	▼
					無解答率とその比較	3.7%	3.8%	-0.1	4.4%
4 (3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	図形	選択	●	66.5%	▼	64.2%	◆
					無解答率とその比較	4.4%	4.6%	-0.2	5.3%
4 (4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	図形	選択	●	57.6%	◆	54.5%	≡
					無解答率とその比較	4.6%	5.1%	-0.5	5.9%

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域等の平均正答率は、すべての分野において全国平均正答率、全道平均正答率とほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、全国より2.3ポイント高かった。
- 正答率が全国より3ポイント以上下回った問題が5問あり、うち2問は「記述式問題」であった。また、無解答率が10パーセントを上回った設問も「記述式問題」であり、問題を解釈して自分の考えを記述することに課題があると考えられる。

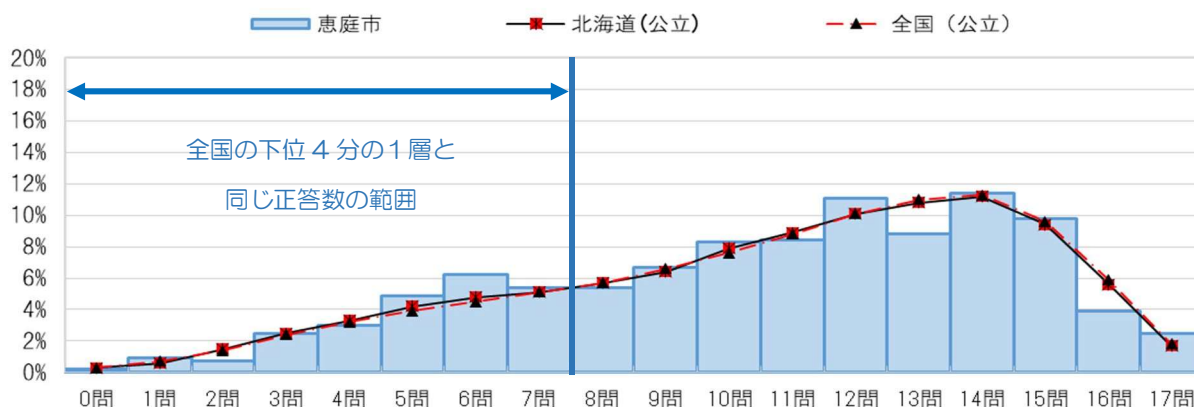


*小学校理科 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R4	恵庭市	●	●	○	○	○	○	・
	国と比較	≡	≡	≡	≡	≡	≡	◆
	全国(公立)	51.6%	60.4%	75.0%	64.6%	66.8%	66.2%	47.3%
	道と比較	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡
	全道(公立)	51.2%	60.4%	74.1%	64.1%	66.3%	67.7%	45.3%
H30 (前回) ※参考	前回実施	エネルギー	物質	生命	地球	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≡	◆	◇	≡	≡	◇	◆
	道と比較	≡	≡	◇	≡	≡	≡	≡

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R4	恵庭市	23.8%	2.3
	全国	21.5%	
	全道	22.3%	0.8

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全17問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	2問	エネルギー	0 / 4問	選択式問題	1 / 11問
		粒子	1 / 5問	短答式問題	1 / 3問
		生命	1 / 5問	記述式問題	0 / 3問
		地球	0 / 5問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	5問	エネルギー	1 / 4問	選択式問題	2 / 11問
		粒子	2 / 5問	短答式問題	1 / 3問
		生命	1 / 5問	記述式問題	2 / 3問
		地球	2 / 5問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	2問	エネルギー	1 / 4問	選択式問題	0 / 11問
		粒子	1 / 5問	短答式問題	0 / 3問
		生命	0 / 5問	記述式問題	2 / 3問
		地球	0 / 5問	※領域の重複する設問がある。	

* 主な設問別結果一覧

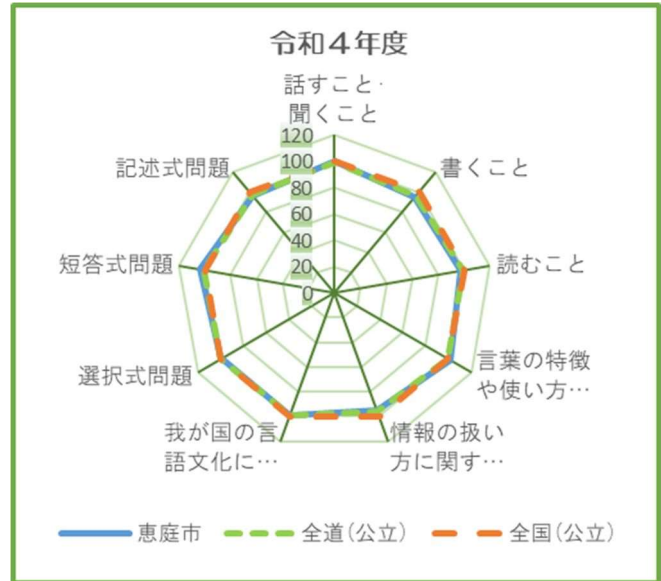
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している	生命	選択	○	73.1%	◇	72.7%	◇
					無解答率とその比較		0.2%	0.3%	-0.1
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している	粒子	短答	○	67.8%	△	74.3%	◇
					無解答率とその比較		5.8%	9.8%	-4.0
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	生命	選択	○	65.5%	◆	64.4%	◆
					無解答率とその比較		1.9%	1.4%	0.5
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	粒子	記述	▪	39.3%	◆	36.8%	≡
					無解答率とその比較		10.2%	8.7%	1.5
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	エネルギー	記述	▪	35.1%	◆	33.7%	≡
					無解答率とその比較		11.1%	11.2%	-0.1
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	地球	選択	▪	45.5%	◆	45.5%	◆
					無解答率とその比較		6.0%	6.5%	-0.5
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	粒子、地球	短答	●	62.0%	◆	59.6%	◆
					無解答率とその比較		6.0%	6.2%	-0.2

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る



*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域の平均正答率は、全道とほぼ同程度であった。また、問題形式別の平均正答率では、「短答式問題」が全国をやや上回っており、その他の分野においてはほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より0.3ポイント低かった。
- 無回答率が10%以上の設問は3問であり、いずれも「記述式問題」であった。全国の正答率を3ポイント以上上回った設問は2問あり、うち1問は全国を上回った。

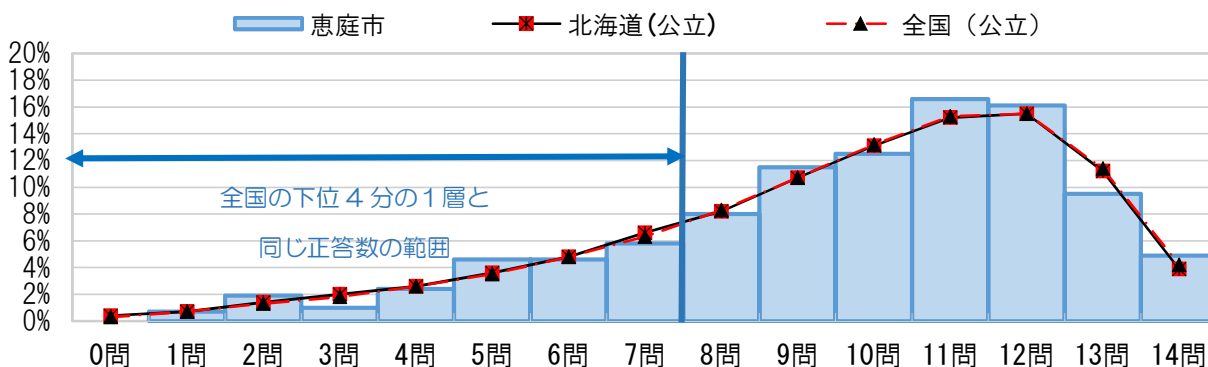


* 中学校国語 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率					問題形式別正答率			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R4	恵庭市	○	▪	○	○	▪	○	○	○	●
	国と比較	≒	◆	≒	≒	◆	≒	≒	◇	≒
	全国(公立)	63.9%	46.5%	67.9%	72.2%	46.5%	70.2%	73.7%	70.3%	57.4%
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	全道(公立)	63.5%	44.5%	67.3%	72.1%	44.5%	69.3%	73.3%	70.7%	55.7%
R3 (前回) ※参考	前回実施	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≒	◇	≒	◇			≒	◇	≒
	道と比較	≒	◇	≒	◇			≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R4	恵庭市	21.0%	-0.3
	全国	21.3%	
	全道	22.1%	0.8

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	2 / 5問
		読むこと	0 / 2問	記述式問題	0 / 3問
		言葉の特徴や使い方	2 / 6問	※領域の重複する設問がある。	
		情報の扱い方	0 / 1問		
		我が国の言語文化	0 / 3問		
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	なし				
無解答率が10%以上の設問	3問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	0 / 5問
		読むこと	1 / 2問	記述式問題	3 / 3問
		言葉の特徴や使い方	1 / 6問	※領域の重複する設問がある。	
		情報の扱い方	1 / 1問		
		我が国の言語文化	0 / 3問		

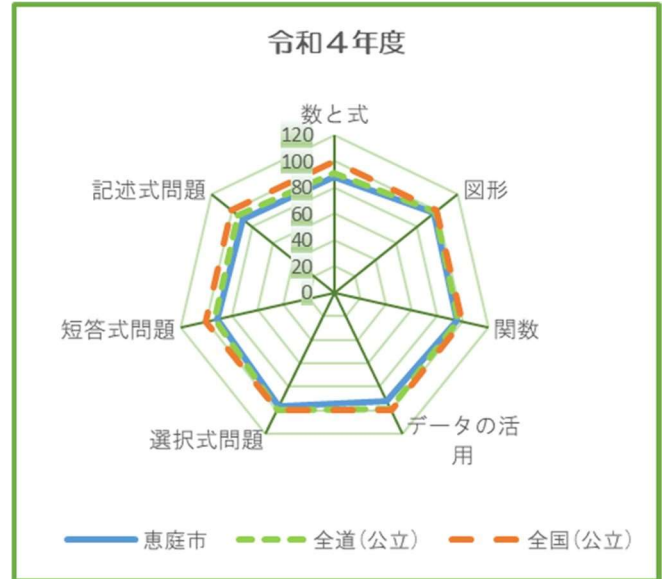
* 主な設問別結果一覧

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
2二②	漢字を書く(よるこんで)	文脈に即して漢字を正しく書く	言葉の特徴や使い方に関する事項	短答	◎	80.5%	◇	80.3%	◇
					無解答率とその比較	2.7%	3.3%	-0.6	3.6%
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	言葉の特徴や使い方に関する事項	短答	●	52.5%	△	55.2%	◇
					無解答率とその比較	0.3%	0.7%	-0.4	0.7%
★恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	言葉の特徴や使い方に関する事項、話すこと・聞くこと	記述	▪	51.8%	◆	49.8%	≡
					無解答率とその比較	18.8%	16.2%	2.6	18.6%
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	情報の扱い方に関する事項、書くこと	記述	▪	46.5%	◆	44.5%	≡
					無解答率とその比較	10.0%	9.0%	1.0	10.0%
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	読むこと	記述	○	73.8%	≡	73.0%	≡
					無解答率とその比較	16.1%	13.3%	2.8	15.1%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≡ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域等の平均正答率は、「データの活用」で全道をやや下回っており、その他は全道とほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より5.1ポイント高かった。
- 設問数14問のうち、10問が全国の前正答率を3ポイント以上下回っていることから、全体的な分野において課題がある。

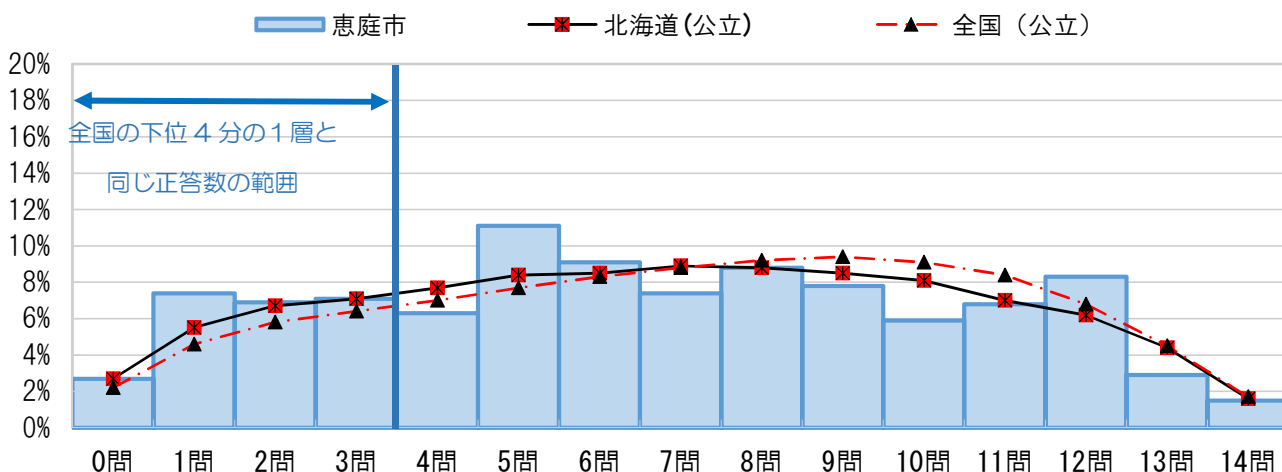


*中学校数学 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と式	図形	関数	データの活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R4	恵庭市	●	・	・	●	●	●	・
	国と比較	▼	≒	≒	◆	≒	▼	◆
	全国(公立)	57.4%	43.6%	43.6%	57.1%	52.6%	65.7%	36.2%
	道と比較	≒	≒	≒	◆	≒	≒	≒
	全道(公立)	52.0%	43.0%	42.3%	56.5%	52.3%	61.2%	34.0%
R3 (前回) ※参考	前回実施	数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≒	◇	◇	≒	≒	≒	≒
	道と比較	≒	◇	◇	◇	≒	◇	◇

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R4	恵庭市	24.1%	5.1
	全国	19.0%	
	全道	22.0%	3.0

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)			(形式別内訳)		
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	1問	数と式	0 / 5問	選択式問題	1 / 4問		
		図形	1 / 3問	短答式問題	0 / 5問		
		関数	0 / 3問	記述式問題	0 / 5問		
		データの活用	0 / 3問				
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	10問	数と式	5 / 5問	選択式問題	2 / 4問		
		図形	1 / 3問	短答式問題	4 / 5問		
		関数	1 / 3問	記述式問題	4 / 5問		
		データの活用	3 / 3問				
無解答率が 10%以上の設問	5問	数と式	3 / 5問	選択式問題	0 / 4問		
		図形	1 / 3問	短答式問題	1 / 5問		
		関数	1 / 3問	記述式問題	4 / 5問		
		データの活用	0 / 3問				

* 主な設問別結果一覧

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形 式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	図形	選択	▪	44.9%	◇	45.1%	◇
					無解答率とその比較	0.5%	0.4%	0.1	0.3%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	数と式	短答	▪	52.2%	▼	35.8%	≡
					無解答率とその比較	12.0%	11.5%	0.5	16.1%
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	数と式	短答	○	74.5%	▼	71.1%	◆
					無解答率とその比較	6.9%	6.1%	0.8	6.9%
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	データの活用	選択	○	83.3%	◆	82.1%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.3%	-0.1	0.2%
6 (1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	数と式	短答	○	73.8%	◆	73.2%	◆
					無解答率とその比較	5.1%	6.0%	-0.9	6.8%
6 (2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	数と式	記述	▪	48.7%	▼	43.5%	◆
					無解答率とその比較	25.0%	20.0%	5.0	24.9%
6 (3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	数と式	記述	▪	37.6%	◆	36.1%	◆
					無解答率とその比較	30.2%	26.2%	4.0	29.9%
7 (1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	データの活用	記述	▪	44.0%	◆	42.4%	≡
					無解答率とその比較	1.0%	1.4%	-0.4	1.8%
7 (2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	データの活用	選択	▪	44.1%	▼	45.1%	▼
					無解答率とその比較	0.7%	0.7%	0.0	0.8%

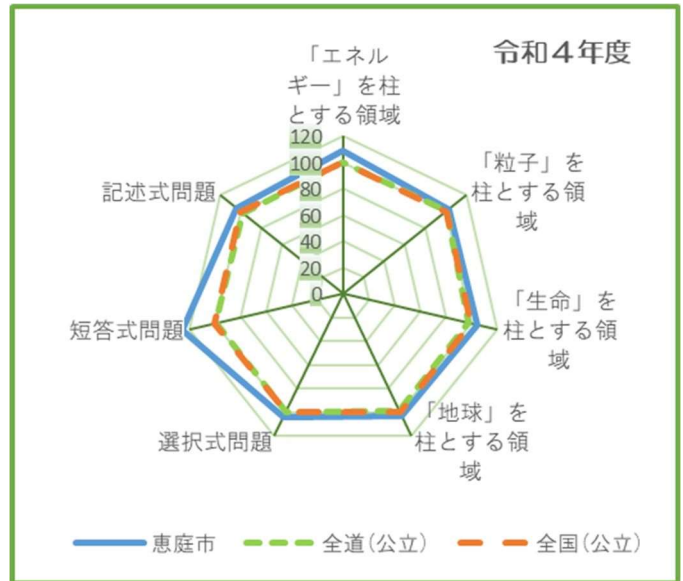
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
8 (2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	記述	■	38.4%	◆	35.6%	◆
					無解答率とその比較	26.0%	24.4%	1.6	26.0%
9 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図形	短答	○	73.2%	▼	71.7%	◆
					無解答率とその比較	8.8%	7.5%	1.3	8.6%
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
9 (2)	∠ABEと∠CBFの和が30°になる理由を示し、∠EBFの大きさがいつでも60°になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	図形	記述	■	12.5%	≡	12.2%	≡
					無解答率とその比較	40.0%	38.5%	1.5	42.5%

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る



*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 問題形式別正答率は、「短答式問題」で全国を上回っており、「記述式問題」で全国をやや上回っていた。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より2.2ポイント低かった。
- 「記述式問題」では全国の前正答率を3ポイント以上上回る設問が1問あるものの、5問中3問で無回答率が10%を上回っていた。

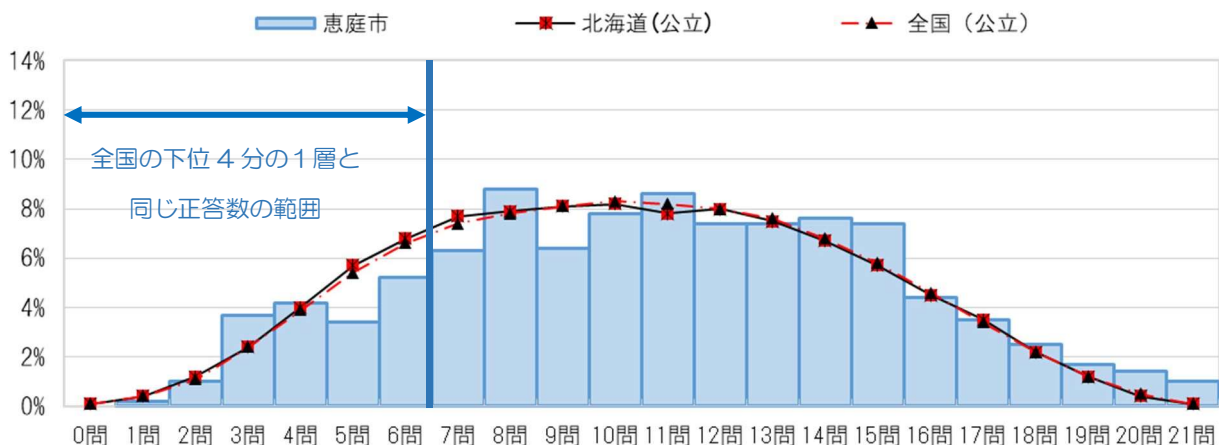


*中学校理科 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R4	恵庭市	・	●	○	・	●	・	●
	国と比較	◇	≒	◇	≒	≒	△	◇
	全国(公立)	41.9%	50.9%	57.9%	44.3%	49.6%	24.8%	53.5%
	道と比較	◇	≒	◇	≒	◇	△	◇
	全道(公立)	41.9%	51.2%	56.8%	43.6%	49.5%	24.6%	52.4%
H30 (前回) ※参考	前回実施	物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≒	◇	△	≒	≒	△	◇
	道と比較	≒	≒	◇	≒	≒	△	◇

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位 4 分の 1 層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R4	恵庭市	17.7%	-2.2
	全国	19.9%	
	全道	20.6%	0.7

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度 4 分の 1 で区切ることができないので、「全国の下位 25% に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全 21 問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	6問	エネルギー	2 / 6問	選択式問題	4 / 15問
		粒子	2 / 5問	短答式問題	1 / 1問
		生命	2 / 5問	記述式問題	1 / 5問
		地球	1 / 6問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	2問	エネルギー	0 / 6問	選択式問題	2 / 15問
		粒子	1 / 5問	短答式問題	0 / 1問
		生命	0 / 5問	記述式問題	0 / 5問
		地球	1 / 6問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	3問	エネルギー	1 / 6問	選択式問題	0 / 15問
		粒子	0 / 5問	短答式問題	0 / 1問
		生命	2 / 5問	記述式問題	3 / 5問
		地球	0 / 6問	※領域の重複する設問がある。	

* 主な設問別結果一覧

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形 式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	エネルギー	選択	●	44.2%	△	47.9%	△
			無解答率とその比較		0.0%	0.1%	-0.1	0.0%	0.0
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	地球	選択	▪	40.8%	△	40.1%	△
			無解答率とその比較		0.2%	0.3%	-0.1	0.2%	0.0
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	粒子	選択	◎	80.1%	◇	80.2%	◇
			無解答率とその比較		0.2%	0.1%	0.1	0.1%	0.1
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	エネルギー、粒子	短答	▪	24.8%	△	24.6%	△
			無解答率とその比較		3.9%	4.3%	-0.4	4.4%	-0.5
4 (2)	脊椎動物には骨格のつくりが共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	生命	選択	○	65.6%	◇	64.8%	◇
			無解答率とその比較		0.2%	0.2%	0.0	0.2%	0.0
8 (3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	生命	記述	▪	39.2%	△	39.5%	△
			無解答率とその比較		2.2%	1.4%	0.8	1.8%	0.4

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形 式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	地球	選択	■	54.2%	◆	53.2%	◆
			無解答率とその比較		0.2%	0.2%	0.0	0.2%	0.0
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	粒子	選択	■	35.9%	◆	37.3%	▼
			無解答率とその比較		0.2%	0.4%	-0.2	0.4%	-0.2
★恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	エネルギー	記述	■	43.3%	◇	42.8%	◇
			無解答率とその比較		28.2%	29.4%	-1.2	31.2%	-3.0
8 (1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	生命	記述	●	55.2%	◇	53.9%	◇
			無解答率とその比較		10.5%	11.6%	-1.1	12.9%	-2.4
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる	生命	記述	●	55.1%	≡	53.9%	◇
			無解答率とその比較		14.4%	14.9%	-0.5	15.7%	-1.3

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る	▼下回る

3 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果

(1) 小・中学校児童生徒質問紙調査結果の概要

ア. 生活習慣

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ア. 生活習慣に関する質問								
1	朝食を毎日食べていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	91.7%	92.5%	-0.8	94.4%	-2.7
			中3	90.9%	90.3%	0.6	91.9%	-1.0
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	81.4%	81.5%	-0.1	81.5%	-0.1
			中3	74.1%	79.1%	-5.0	79.9%	-5.8
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	88.7%	90.1%	-1.4	90.4%	-1.7
			中3	88.9%	92.1%	-3.2	92.2%	-3.3
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	「きちんと守っている」「だいたい守っている」	小6	69.7%	71.3%	-1.6	71.5%	-1.8
			中3	61.6%	68.7%	-7.1	69.5%	-7.9
5	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	2時間以上している	小6	56.9%	57.7%	-0.8	50.2%	6.7
			中3	51.7%	55.0%	-3.3	50.3%	1.4
6	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)	2時間以上している	小6	40.0%	38.9%	1.1	32.5%	7.5
			中3	61.1%	58.1%	3.0	52.0%	9.1

【規則正しい生活】朝食の習慣について、「朝食を毎日食べている」と答えた割合は、小・中学校ともに9割を超えているが、いずれも昨年度と比べて3ポイント程度低い。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた割合は、小学校では全道・全国と同程度だが、中学校では5ポイント程度低い。「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国より若干低い。

過去の結果と比較しても、規則正しい生活を送る子どもの割合が減少傾向にあるため、家庭や学校において生活リズムを整えるよう、更に指導していく必要がある。

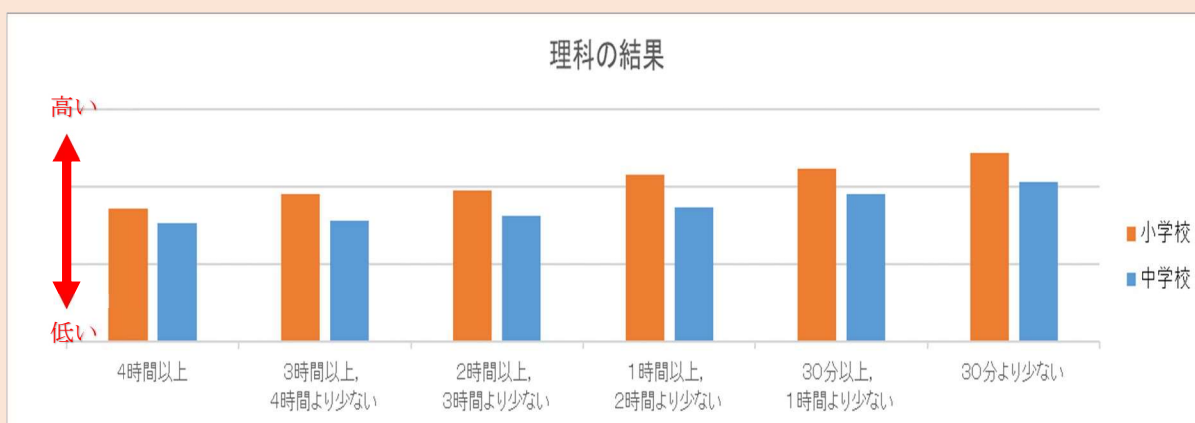
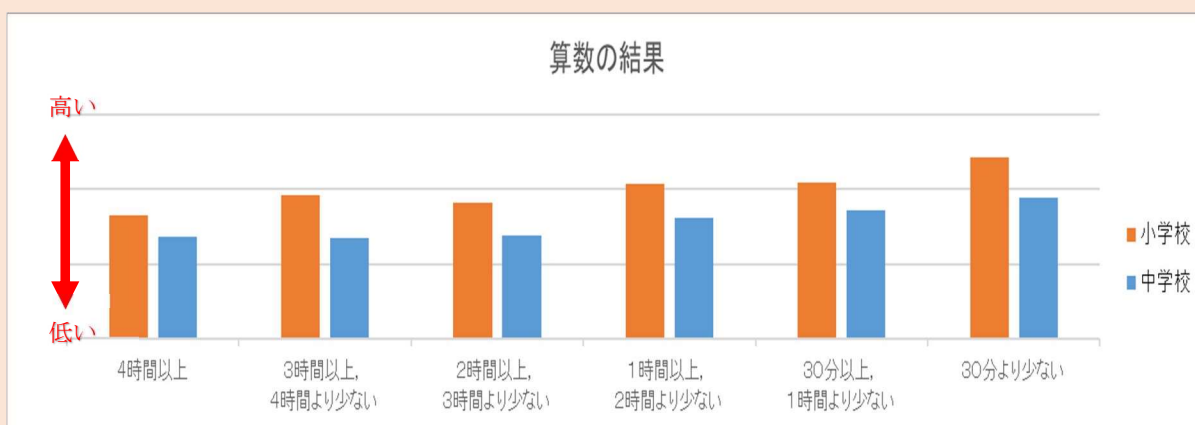
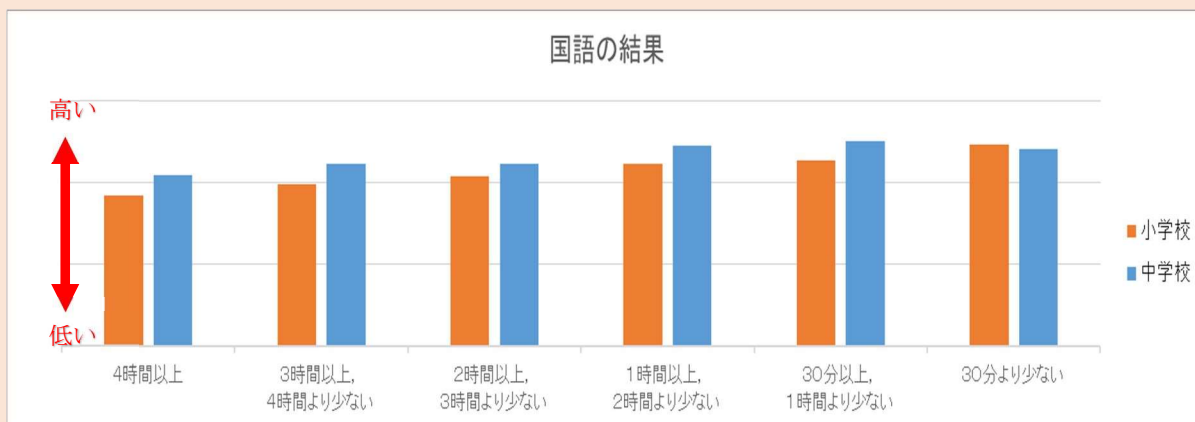
【家庭でのルール】家庭での約束ごとについて、「守っている」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国より低く、特に中学校では7ポイント以上低くなっている。中学生になるとスマートフォンを利用する機会が多くなるからこそ、子どもを守るためにも家庭でルールを設定し、そのルールに則った利用が求められる。

【ゲーム・SNS等】今回の調査から、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)や動画視聴に関する質問が追加されており、「2時間以上」利用している割合は、小・中学校ともに全国より7ポイント以上高い。特に中学生では6割を超えており、ゲームをする時間と合わせると非常に多くの時間を費やしている。結果として、睡眠時間や勉強時間が確保できず、学力のみならず体調や意欲にも影響を与える可能性が高い。北海道教育委員会では、学習以外でメディアに触れる時間を1日2時間以内とする目安を公表しているため、指導の参考としたい。

【参考】道教委リーフレット「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」
https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/jikan_meyasu_h29/3.html
 ※記載したウェブサイトのアドレスは、令和5年1月現在のものです。

質問番号6のクロス集計

「普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」



【平均正答率との相関関係】 SNS 利用や動画視聴の時間に係る質問への回答と、平均正答率との関係は、時間が長いほど点数が下がる傾向にあることが分かる。長時間の SNS 利用や動画視聴は、学習時間の減少につながるだけではなく、家族でのコミュニケーションの時間が減ることや、目の疲れといった体への影響も考えられる。学校ではインターネット利用に係る注意事項等を指導していくとともに、家庭でもスマートフォンやタブレットの利用について良く話し合い、時間やコンテンツの内容等ルールを決めるなどして、生活習慣の改善に繋げていく必要がある。

イ. 自分やまわりへの意識

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
イ. 自分やまわりへの意識に関する質問								
7	自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	75.3%	76.4%	-1.1	79.3%	-4.0
			中3	84.7%	77.4%	7.3	78.5%	6.2
8	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	81.9%	85.2%	-3.3	87.1%	-5.2
			中3	91.6%	86.3%	5.3	86.6%	5.0
9	将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.3%	78.5%	0.8	79.8%	-0.5
			中3	67.1%	66.3%	0.8	67.3%	-0.2
10	自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	86.3%	87.2%	-0.9	87.2%	-0.9
			中3	85.6%	86.4%	-0.8	86.6%	-1.0
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	97.7%	97.0%	0.7	96.8%	0.9
			中3	98.2%	96.1%	2.1	96.4%	1.8
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	94.5%	94.7%	-0.2	95.1%	-0.6
			中3	93.4%	94.2%	-0.8	95.0%	-1.6
18	友達と協力するのは楽しいと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	93.5%	93.4%	0.1	94.0%	-0.5
			中3	92.7%	92.7%	0.0	93.7%	-1.0

【自己肯定感】「自分にはよいところがある」と答えた割合は、小学校では全道・全国より若干低いが、中学校では6ポイント以上高い。自分の良いところを見つける意識が少しずつ芽生えていることから、学校でも引き続き働きかけていきたい。「先生がよいところを認めてくれる」と答えた割合は、小学校で全道・全国より3ポイントから5ポイント低く、中学校で5ポイント程度高い。他者から褒められる、認められることは、自己肯定や意欲向上へ繋がるため、小学校では子どもの行動や気持ちへの理解に基づく声掛けが一層求められる。

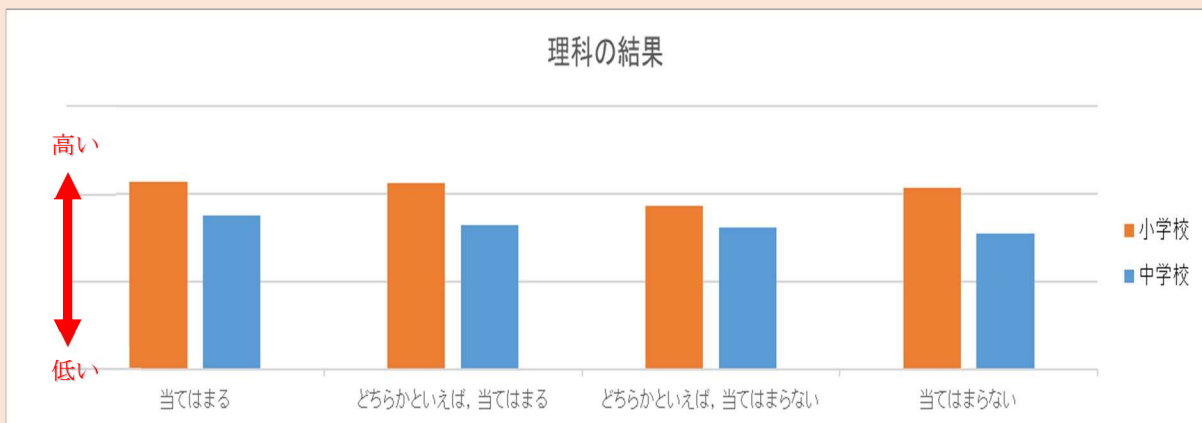
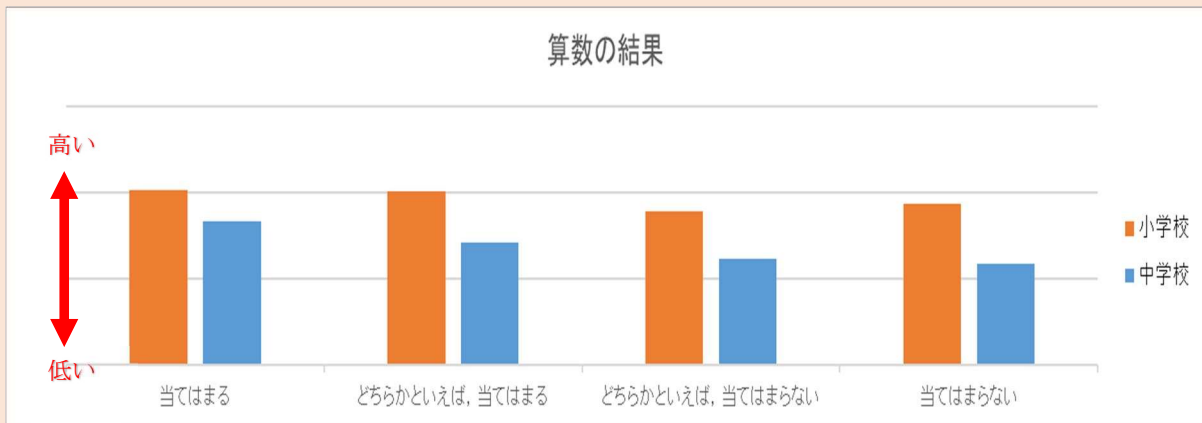
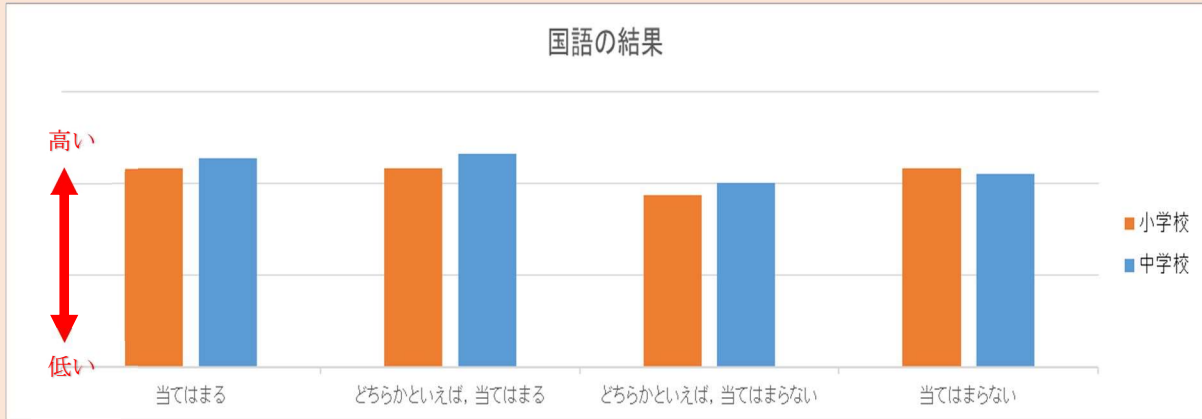
【挑戦心】「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は、中学校で昨年度より3ポイント程度低い。「決めたことはやり遂げる」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国を若干下回っているが、昨年度より3～4ポイント程度高くなっている。将来の夢や目標を持ち、チャレンジする気持ちは学校生活だけでなく、将来にわたり重要であることから、「キャリア・パスポート」等も活用したキャリア教育で、夢や目標の設定、そこに向かって努力することの大切さを引き続き指導していく必要がある。

※「キャリア・パスポート」とは・・・児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動において、学級活動及びホームルーム活動を中心として、自らの学習状況やキャリア形成について見通したり振り返ったりすることで、自身の変容や成長を自己評価し、目標を設定できるよう工夫されたポートフォリオ（書類ケースという意味）。

【親切心・友人関係】「いじめはいけない」と答えた割合は、全道・全国とほぼ同程度が高い割合になっている。「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合は、全道・全国との比較で若干の差はあるものの、9割を超えており、他者への貢献や思いやり、自己有用感を大切に思っている児童生徒が多い。また、「友達と協力するのは楽しい」と答えた割合は、小・中学校ともに9割以上あり、友人の存在を肯定的に捉えている割合が多いことが分かる。

質問番号7のクロス集計

「自分にはよいところがあると思いますか」



【平均正答率との相関関係】「自分には、よいところがあるか」という自尊感情、自己肯定感に関する質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向にある。自尊感情は、自信や意欲の向上につながると考えられており、成功体験の蓄積や、親や教員から褒められる経験等を繰り返すことで高められる。今後も、学校や家庭でのコミュニケーションを通して、子どもが自分を認められる環境を整えることが求められる。

ウ. 家庭学習・読書習慣

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ウ. 家庭学習に関する質問								
20	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	「よくしている」「ときどきしている」	小6	78.5%	76.6%	1.9	71.1%	7.4
			中3	54.6%	59.7%	-5.1	58.5%	-3.9
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	1時間以上している	小6	59.2%	56.6%	2.6	59.4%	-0.2
			中3	61.9%	63.6%	-1.7	69.5%	-7.6
22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	1時間以上している	小6	62.7%	57.1%	5.6	56.1%	6.6
			中3	61.5%	67.6%	-6.1	70.8%	-9.3
23	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	30分以上している	小6	41.2%	34.8%	6.4	36.4%	4.8
			中3	26.9%	28.1%	-1.2	27.3%	-0.4
		全くしない	小6	23.6%	28.6%	-5.0	26.3%	-2.7
			中3	39.5%	38.7%	0.8	39.0%	0.5
26	読書は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	76.6%	72.9%	3.7	73.1%	3.5
			中3	74.8%	70.5%	4.3	68.2%	6.6

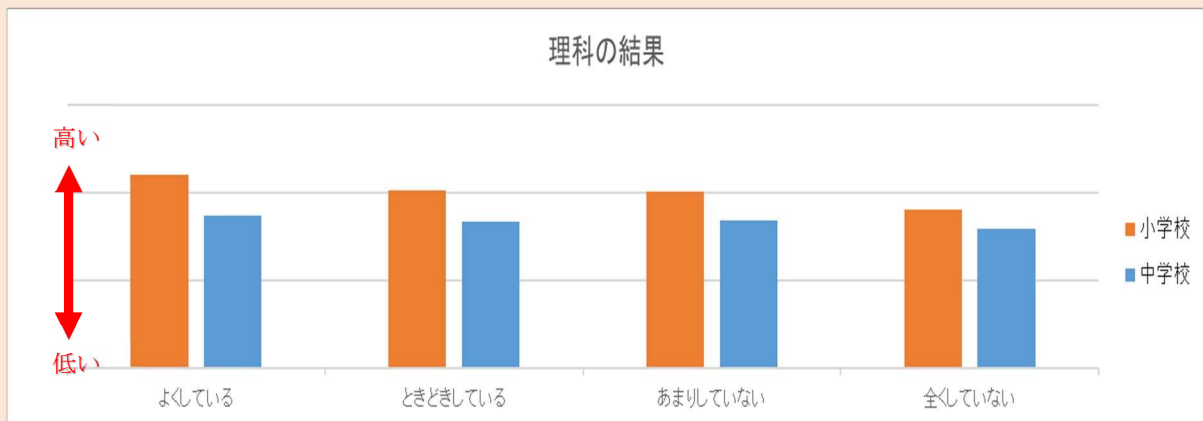
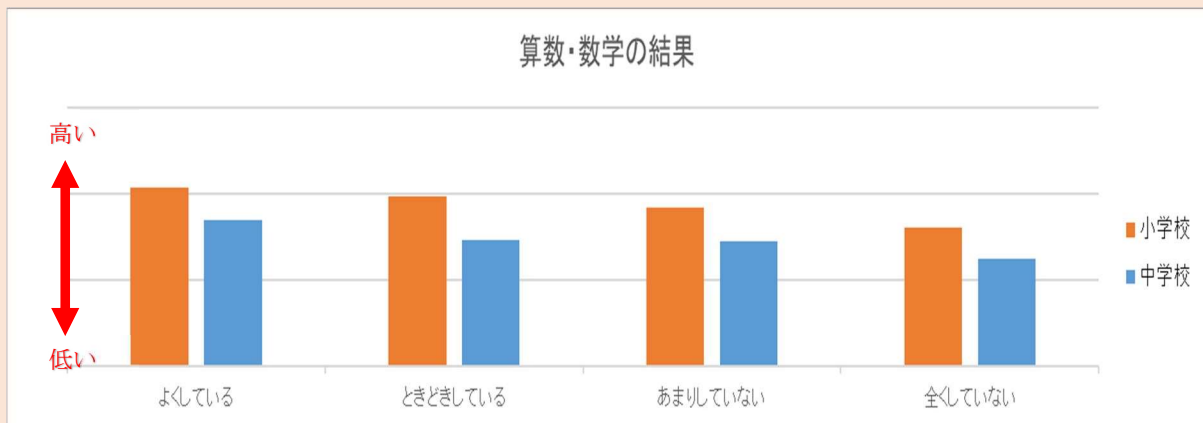
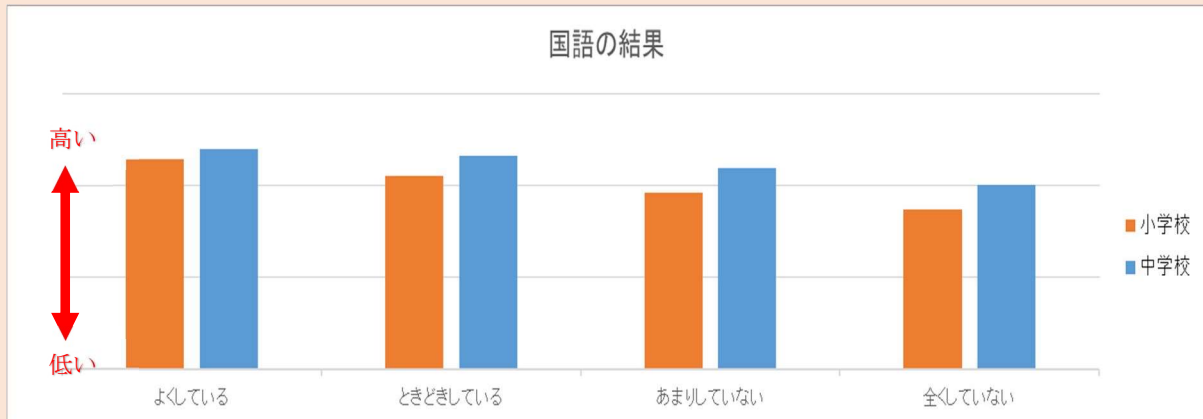
【家庭学習の内容】「自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は、全国と比較すると小学校で7.4ポイント高いが、中学校では全道・全国より低い。昨年度と比べても、中学校は大きくポイントを落としており、計画的な家庭学習について、学校と家庭が連携して取り組む必要がある。

【家庭学習の時間】市教委では、家庭学習の時間の目安を小1から数えた学年×10分+10分としており、小学校6年生では70分、中学校3年生では100分になる。「平日に1時間以上学校以外で勉強している」と答えた割合は、小学校は昨年度と大きく変わらないが、中学校では10ポイント以上低い。また、「休日に1時間以上勉強している」と答えた割合は、中学校で昨年度より20ポイント近く低くなっており、全道・全国平均を大幅に下回っている。ゲームやスマートフォンの利用が進んだことで、家庭学習に取り組む時間の優先順位が下がっていることから、自ら学んでいく前向きな姿勢が身に付くよう、指導方法等の検討が求められる。

【読書習慣】「読書が好き」と答えた割合が、小・中学校ともに全道・全国より3ポイント以上高いものの、「読書を全くしない」と答えた割合が、中学校で4割近くになるなど、特に中学校での読書離れが進んでいる。これは、SNSや動画視聴、ゲーム等に費やす時間が増えた分、読書や家庭学習に割く時間が減少していると推測されるため、時間の使い方について改善が求められる。市内小・中学校では、市立図書館との連携による学校図書館の蔵書の充実を図り、保護者やボランティアの協力による読み聞かせや、朝読書等の活動を実施しているが、家庭での読書時間は年々減少している結果となっている。恵庭市は「読書のまちづくり」を掲げ、「恵庭市人とまちを育む読書条例」を平成25年度に施行し、本と触れ合うための様々な施策を実施していることから、引き続き読書習慣の向上を図っていきたい。

質問番号 20 のクロス集計

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」



【平均正答率との相関関係】家庭学習で計画を立てて勉強することと、平均正答率には相関関係があることがうかがえる。特に、算数や数学に関しては、特に解き方や「どうしてこの答えになるのか」といった問題解決力を伸ばすことが学力向上につながるため、勉強時間の設定だけでなく、不得意な部分の克服等、自分に合った目標をもって取り組むことが重要である。限られた時間で学んだことを吸収するためにも、計画を立てて学習に取り組めるよう、学校でも学習方法を指導しながら、家庭からの働きかけを促していきたい。

エ. 地域や社会

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
エ. 地域や社会に関する質問								
27	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあります	「よくある」「ときどきある」	小6	64.9%	67.8%	-2.9	65.1%	-0.2
			中3	56.6%	55.6%	1.0	55.0%	1.6
28	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあります(習い事の先生は除く)	「よくある」「ときどきある」	小6	30.1%	30.6%	-0.5	30.6%	-0.5
			中3	13.6%	20.5%	-6.9	21.1%	-7.5
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	52.6%	46.7%	5.9	52.7%	-0.1
			中3	39.8%	34.7%	5.1	40.0%	-0.2
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	49.9%	49.7%	0.2	51.3%	-1.4
			中3	38.4%	37.0%	1.4	40.7%	-2.3

【地域との関わり】「地域の大人に教わったり遊んだりすることがある」と答えた割合は、小・中学校ともに、全道・全国を下回っており、特に中学校では全道・全国より7ポイント程度低く、2割を下回っている。市内では、全校に「学校運営協議会」が設置され、地域と学校が一体となって子ども達の教育を担う「コミュニティ・スクール」を展開している。また、「地域の行事に参加している」と答えた割合は、小・中学校ともに全道より5ポイント以上高いものの、全国を若干下回っている。子どもが参加できる行事が減少していることも考えられるため、今後、地域との関わりが更に弱くなる可能性がある。

【ふるさと教育】「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と答えた割合は、小・中学校で全道より若干高いが、全国より低い。恵庭市では、小学校3・4年生で恵庭の歴史や産業、くらし等を学ぶための社会科副読本を独自に編纂し、活用している他、各校で地域資源を活用した「ふるさと教育」を推進しているため、今後も継続していきたい。

なお、令和4年度は「第39回全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道2022）」が恵庭市をメイン会場に開催された。同フェアは国民一人ひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを進めるための普及啓発事業として、毎年全国各地で開催されている。期間中は、メイン会場に約34万人の来場があり、「花のまちえにわ」を象徴するイベントとして開催され、多くの小中学生が参加した。こうした取組も活かしながら、第三次恵庭市教育大綱に掲げる重点施策の一つである『ふるさとに生き 夢と志をいただき 心豊かに たくましく伸びる 子どもの育成』を、今後も進めていく。



オ. 教科（国語・算数/数学・理科）について

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
エ. 教科（国語・算数/数学）に関する質問								
49	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	54.0%	59.7%	-5.7	59.2%	-5.2
			中3	73.8%	63.7%	10.1	61.9%	11.9
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	82.3%	84.4%	-2.1	84.0%	-1.7
			中3	89.9%	82.4%	7.5	81.2%	8.7
53	算数/数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	56.5%	60.1%	-3.6	62.5%	-6.0
			中3	46.2%	54.9%	-8.7	58.1%	-11.9
55	算数/数学の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	78.5%	78.8%	-0.3	81.2%	-2.7
			中3	65.4%	73.5%	-8.1	76.2%	-10.8
61	理科の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	82.3%	81.8%	0.5	79.7%	2.6
			中3	78.4%	64.7%	13.7	66.4%	12.0
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	91.8%	90.5%	1.3	88.5%	3.3
			中3	84.3%	74.1%	10.2	75.2%	9.1

【国語】「国語の勉強が好き」と答えた割合は、小学校で全道・全国より5ポイント程度低い。中学校では全道・全国より10ポイント以上高い。また、「国語の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は、中学校で全道・全国より7ポイント以上高く、前回調査と比べると、中学校では国語が好きで授業を理解している割合が大きく伸びている。逆に小学校では苦手意識が強く、学力調査の結果にも表れている。

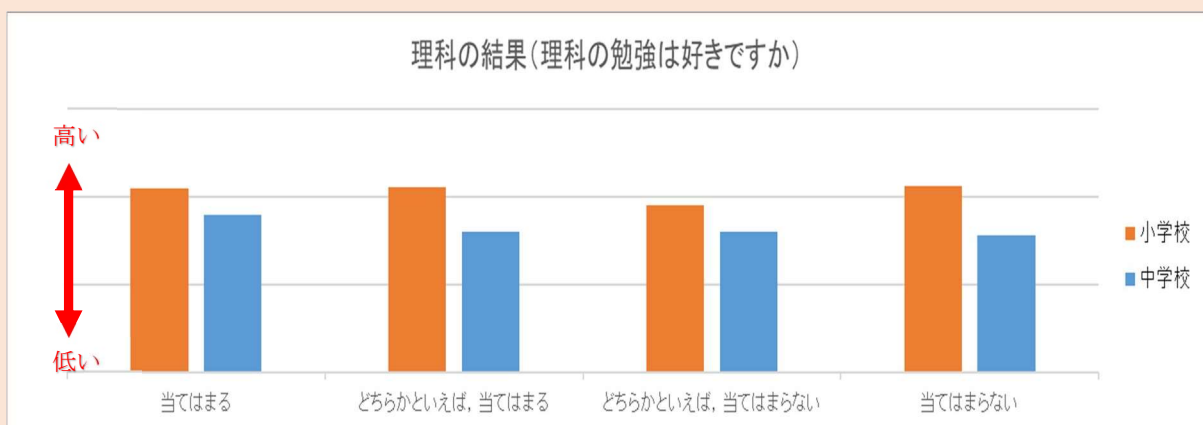
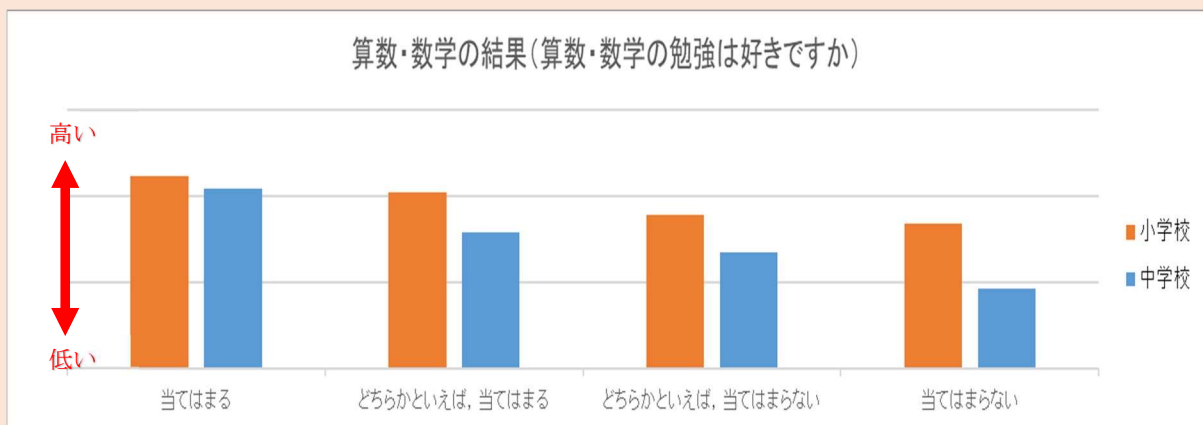
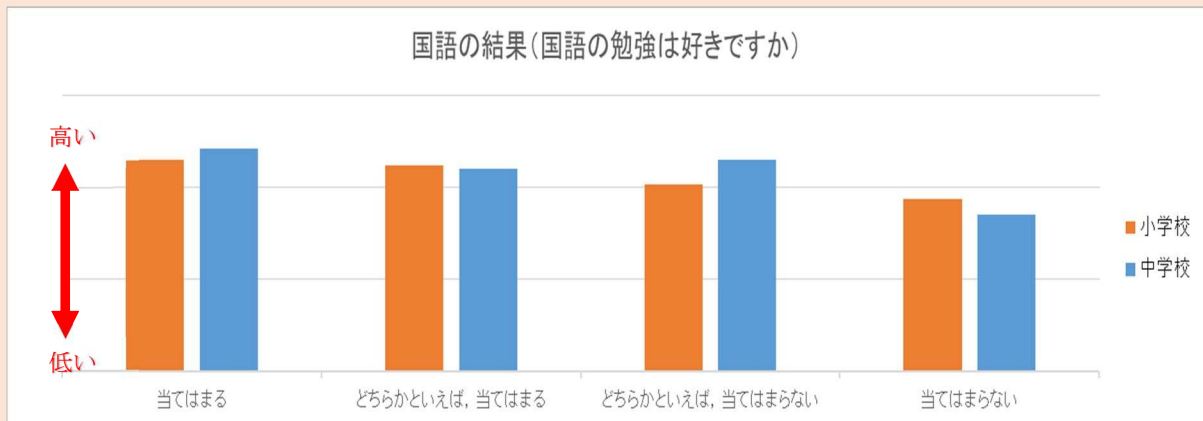
【算数/数学】「算数/数学の勉強が好き」と答えた割合は全国と比べ、小学校で6ポイント、中学校で12ポイント程度低い。また「算数/数学の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国よりも低く、特に中学校では10ポイント程度低く、苦手意識の強さがうかがえる。算数や数学は、積み重ねが重要であり、きちんと理解しないまま進むと、つまづく傾向にある。そのため、学校の授業はもちろん、復習等の家庭学習も重要になるが、ゲーム等で時間を使う傾向が強くなってくると、勉強する時間が削られることになってしまう。学校でも、子どもの理解度に応じた授業や指導を進める必要があるが、家庭でも必要な勉強時間を確保しながら、算数や数学への苦手意識を克服していくことが大切である。

【理科】「理科の勉強が好き」と答えた割合は小・中学校でともに全道・全国より高く、特に中学校では10ポイント以上高い。また「理科の授業の内容がよく分かる」と答えた割合も同じ傾向にあり、学力調査の結果に結びついていると思われる。教科の特徴として、算数や数学のような積み上げ型ではないことも要因として考えられるが、恵庭市の子どもたちが興味や関心を持って理科の学習に取り組んでいることがうかがえる。

【全体】前回調査と比べ、教科ごとの好き嫌いや理解度が、よりはっきりした結果となっており、学力調査の結果とも共通する傾向にある。特に、算数や数学はコロナ禍により授業の機会が減少した影響も無視できず、今後の取組が重要である。今回の理科のように、興味や関心が学ぶ意欲や結果へつながるため、学校は引き続き学ぶ楽しさを感じられるような、「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指し、家庭と連携しながら家庭学習の充実に向けた取組を進めていく必要がある。

質問番号 49、53、61 のクロス集計

「国語、算数・数学、理科の勉強は好きですか」※質問の教科に対応した教科の結果を掲載



【平均正答率との相関関係】教科の好き嫌いが、平均正答率と概ね相関関係にあることがうかがえる。特に、算数や数学においては顕著となっており、「当てはまる」と「当てはまらない」の間には2倍程度の差が生じる結果となった。教科が「好き」だから学力が伸びることは当然だが、「理解できる」「解くことができる」から「好き」になるとも考えられる。学校と家庭で連携して、学ぶことの楽しさにつながる取組を引き続き進めながら、「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指していきたい。

(2) 学校質問紙調査の主な回答結果データ

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
A. 児童・生徒への指導に関する質問								
8	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	「よく行った」	小	62.5%	32.0%	30.5	20.4%	42.1
			中	60.0%	60.1%	-0.1	55.9%	4.1
9	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	「よく行った」	小	75.0%	60.7%	14.3	48.5%	26.5
			中	60.0%	52.2%	7.8	43.5%	16.5
10	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童/生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	「よく行った」	小	75.0%	67.1%	7.9	59.0%	16.0
			中	60.0%	62.6%	-2.6	55.2%	4.8
B. 学校運営に関する質問								
13	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	「よく取り組んでいる」	小	50.0%	49.2%	0.8	51.3%	-1.3
			中	40.0%	37.7%	2.3	36.5%	3.5
14	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか	「よく取り組んでいる」	小	62.5%	51.8%	10.7	39.7%	22.8
			中	40.0%	45.5%	-5.5	37.8%	2.2
20	児童/生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	「よくしている」	小	62.5%	38.1%	24.4	26.5%	36.0
			中	80.0%	33.9%	46.1	23.1%	56.9
C. 授業改善に関する質問								
23	調査対象学年の児童/生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小	100.0%	90.8%	9.2	87.2%	12.8
			中	100.0%	89.6%	10.4	87.9%	12.1
29	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、授業において、児童/生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	93.1%	-5.6	89.8%	-2.3
			中	100.0%	89.3%	10.7	87.0%	13.0
32	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	90.8%	-3.3	87.2%	0.3
			中	80.0%	84.2%	-4.2	80.4%	-0.4
D. 教科の指導方法に関する質問								
36	調査対象学年の児童/生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童/生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	「よくしている」	小	75.0%	51.9%	23.1	37.6%	37.4
			中	80.0%	60.0%	20.0	46.1%	33.9
42	調査対象学年の児童/生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	97.3%	2.7	95.6%	4.4
			中	80.0%	97.0%	-17.0	95.8%	-15.8
48	調査対象学年の児童/生徒に対する算数/数学の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童/生徒がそのわけ(根拠)を理解できるように工夫していましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	98.1%	1.9	97.1%	2.9
			中	100.0%	97.7%	2.3	97.0%	3.0
51 50	調査対象学年の児童/生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	96.0%	4.0	94.2%	5.8
			中	100.0%	97.7%	2.3	96.8%	3.2

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全道(公立)		全国(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
E. ICTを活用した学習に関する質問								
57	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	「ある」「どちらかといえば、ある」	小	87.5%	97.1%	-9.6	94.7%	-7.2
55			中	100.0%	93.3%	6.7	90.8%	9.2
59	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	「ほぼ毎日」「週3回以上」	小	75.0%	91.2%	-16.2	85.1%	-10.1
57			中	80.0%	87.7%	-7.7	81.2%	-1.2
61	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	「ほぼ毎日」「週3回以上」	小	25.0%	47.5%	-22.5	39.9%	-14.9
59			中	60.0%	48.8%	11.2	44.1%	15.9
F. 小学校と中学校の連携に関する質問								
69	前年度までに、近隣等の中学校/小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	62.5%	68.4%	-5.9	52.7%	9.8
67			中	60.0%	77.3%	-17.3	61.1%	-1.1
70	前年度までに、近隣等の中学校/小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	62.5%	56.0%	6.5	48.2%	14.3
68			中	60.0%	66.9%	-6.9	58.0%	2.0
G. 家庭や地域との連携に関する質問								
73	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	「よくしている」「どちらかといえば、している」	小	100.0%	90.9%	9.1	82.0%	18.0
71			中	100.0%	91.7%	8.3	79.7%	20.3
74	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	「よくしている」「どちらかといえば、している」	小	100.0%	91.3%	8.7	94.6%	5.4
72			中	80.0%	67.7%	12.3	77.5%	2.5
75	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(74)/(72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	67.7%	32.3	70.8%	29.2
73			中	80.0%	52.3%	27.7	55.8%	24.2
H. 家庭学習に関する質問								
77	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	97.8%	2.2	96.5%	3.5
75			中	100.0%	95.2%	4.8	93.6%	6.4
78	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	97.4%	2.6	92.4%	7.6
76			中	100.0%	93.0%	7.0	86.7%	13.3
79	調査対象学年の児童/生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童/生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	92.3%	7.7	89.7%	10.3
77			中	100.0%	89.4%	10.6	86.9%	13.1



4 総評

① 学力調査の結果について

全国学力・学習状況調査の結果から、恵庭市の児童（小学校6年生）の平均正答率は、全国平均に比べて、国語が「ほぼ同程度」、算数が「やや下回る」、理科が「ほぼ同程度」という結果となりました。生徒（中学校3年生）の平均正答率は、全国平均に比べて、国語が「ほぼ同程度」、数学が「やや下回る」、理科が「やや上回る」という結果となりました。

また、全国の下位約25%の児童生徒と同じ正答率の範囲に含まれる恵庭市の児童生徒の割合は、前回（令和3年度）と比べて、次のようになりました。昨年度よりも学力に課題のある割合が増加していることが分かります。

全国の下位 25%の範囲 に含まれる恵 庭市の割合	小学校6年生			中学校3年生		
	(前回) R3	国語 21.5%	算数 23.9%		国語 14.2%	数学 18.0%
R4	国語 23.9%	算数 29.5%	理科 23.8%	国語 21.0%	数学 24.1%	理科 17.7%

※割合が小さくなることで、学力の底上げの目安になります。

② 質問紙の結果について

今回の児童生徒質問紙において、特徴的な設問の一つが、「ゲーム・SNS・動画視聴」に関することで、昨年度に引き続き、「1日あたりの利用時間」は長時間利用する割合が特に中学校で顕著になっていますが、1日の時間は限られているので、時間の使い方には注意する必要があります。遊ぶ時間の中で上手に調整できることが望ましいのですが、就寝や食事、勉強の他、家庭内でのコミュニケーションにまで影響することが心配されます。スマートフォンが広く普及しているからこそ、1日の利用時間を決めて、長時間の利用は控えることで、生活のリズムも安定し、学力の向上にもつながると思われます。

また、令和2年1月から続くコロナ禍の影響として、令和3年度の結果では「自尊感情」の低下が見られましたが、今回の結果では改善傾向となっています。様々なことが制限された日常の中でも、子どもたちが着実に自己肯定感を高め、自分に自信を持てる環境が維持できるよう、引き続き学校と家庭、そして地域が連携、協力して「学びの保障」に取り組んでいきます。

学校質問紙については、各校に足りない点や更に伸ばしていく点を振り返る機会として、今後の学力向上を含めた取り組みに活かしていきます。特に、ICTを活用した授業や教育活動の取り組みに関しては、学校間での情報共有を図りながら、児童生徒だけでなく、教員の負担にも配慮しながら、丁寧に進めていきたいと考えています。

③ 恵庭市の学力向上に向けた取組について

基礎学力の向上を図るため、市内各校では、全国学力調査やNRT（標準学力検査）の分析結果に基づいた「学校改善プラン」を作成し、習熟度別授業やTT（チームティーチング）等を取り入れながら、きめ細かい指導に努めてきました。恵庭市教育委員会では、分かりやすい授業作りのため、平成26年3月に市内13校の全教室に実物投影機を配置、令和元年7月までに市内13校全校に電子黒板を配置しています。

また、令和4年度までに「GIGAスクール構想」に基づくタブレットパソコンを、全校の児童生徒に整備したとともに、指導にあたる教職員のために研修会等を実施するなど、これまで整備してきたICT機器の指導力・活用力の向上に努めています。

平成29年度から「恵庭市小中連携教育推進委員会」を立ち上げ、年間3回の合同会議を開催して、義務教育の9年間を見通した「小中一貫教育」の推進に努めています。同委員会は、4プロジェクト（1.恵庭中・恵明中学校区、2.恵北中学校区、3.柏陽中学校区、4.恵み野中学校区）に分かれ、各プロジェクトには6委員会（①高学年・中1、②生徒指導、③学力向上、④体力向上、⑤児童会・生徒会交流、⑥特別支援）を設置して、小学校と中学校がお互いに情報交換及び交流を通して、円滑な接続につながるよう、小中学校の連携教育を推進しています。

恵庭市学力向上アドバイザーより

令和4年度で、市内全ての小中学校に1人1台端末（タブレットパソコン）の整備が完了しました。子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためには、1人1台端末の活用はなくてはならないものとなっています。授業の中で、家庭学習で、1人1台端末を効果的に活用していくことが、学力向上に向けた取り組みのキーポイントになると考えられます。

長引くコロナ禍の影響もあり、全国的に不登校の児童生徒が急増していますが、全ての子どもたちの「学びの保障」を実現するためにも、1人1台端末の効果的な活用が重要となっています。

